2017.12
Vol.16

Shiripaの星

［シリパのほし］

北星学園余市高等学校同窓会誌

入学式

「自分を成長させたい」
北星余市高で入学式
存続ラインの新入生を確保

町長「存続へ手を打つ」
北星余市閉校方針に
絶対必要な学校。なくしてはならない

北星余市 条件付き存続
入学者70人以上
学園譲歩 関係者 厳しい

北星余市の灯消すな
「町民の会」シンポ 存続へ支援訴え

存続望む声 根強く
どんな子も助ける場を

1年研修会“団結の樹”

新聞記事は北海道新聞より

北星余市の教育は受け継がれている

北星学園余市高等学校校長
平野純生

10月の中旬、2学期の中間テストの最終日に後期生徒会立会演説会が行われました。今回の生徒会役員選挙に立候補した52期生の2年生の生徒たちは9名でした。内訳は男子4名、女子5名。全校生の男女比は2対1で男子が多いのですが、女子の方が積極的な昨今の世情を反映しているのかも。

立会演説会の中で立候補したある女子生徒が、「私はいままで学校という所を楽しいと感じたことはありません。北星余市では、毎日楽しく学校生活を送っています。…生徒会役員になってみんなが楽しく過ごせる学校にしたいと思います。」と語っていました。こんな風に率直に楽しい学校を作りたいと言えるのは、現在の高校においては珍しいことのように思います。でもおそらくそれは、北星余市だからできることかもしれません。つまり北星余市では、生徒会執行部の役割は昔から行事や生活改善の活動を全校生徒のために行うことでした。そんな生徒会執行部の役割が今もしっかりと続いているから、当たり前のように「楽しい学校を作りたい」と言えると思うのです。

1年研修会で必ず行う「団結の樹(き)」は、体験しないとその大変さがわかりません。大変なのに「やるべきもの」として先輩から後輩へと伝えられていきます。強歩遠足も、散々文句をいうくせに、歩いた後の達成感を味わいたくて次の年もまた歩きたくなります。

北星余市の存続の危機はまだまだ続きますが、北星余市が続けてきた教育はそう簡単に真似できないものです。そして、この余市で50年以上続けてきた歴史を振り返ると、これからも続けていく価値のある教育だと思います。ぜひこれからも北星余市が続くことで、多くの生徒たちに北星余市の教育を体験してもらい、成長してもらいたいと思います。

同窓会員の皆様にも、様々なご支援をお願いしたいというのが、校長としての率直な気持ちです。よろしくお願いいたします。

北星余市東日本OB会の活動

林田真理子（41、45期卒業生母）

現役父さん・母さんとの飲み会からスタートしたOB会も、正式に発足して10年ほどになります。

現在330家庭の会員に年3回の会報を発送、卒業生が北星余市入学前から現在の生活や仕事を語ってくれている「キラ星インタビュー」。我が子が卒業してもなお北星余市を応援し続ける想いを語ってもらっている「親の想い」コーナーは、欠かせない記事となっています。

東日本各地で行われる教育相談会の告知活動や強歩遠足の手伝いでは、懐かしい先生たちやPTAOBに会うことが楽しみの一つとなっています。

2015年12月に、学校存続の危機のニュースが流れたわけですが、その後の教育相談会には、これまでにないほどの数の卒業生が顔を出してくれています。余市で経験したことを飾りのない言葉で語ってくれるその存在は相談者にとっても大きな安心感に繋がっています。

OB会としても教育相談会のみならず、各地の不登校対象の進路説明会のお手伝いを続けていくなど、今後も学校存続のために学校・現役PTA、そして同窓会のみなさんと協力しながら活動していきたいと思います。

（2017年から、47期卒業生父山田充一さんが会長に就任されました）

「北オーブ」ってな～に。何やってんの？

塩崎　修

北星余市高校PTA北海道OB会（略称　北オーブ）の主な活動は、以下のとおりです。

年3回の「会報」を発行。内容は学校行事のお知らせ、会員のエッセイや余市の見どころ紹介等と多種多様です。また、強歩遠足での「OB関門」や「完歩りんご」の提供、北星祭での「OBの談話室／ときどき歌声喫茶＝プタオーブ」を開設しています。そして各地域での「教育講演会・相談会」のお手伝い、「北星余市の先生の話力を楽しむ会」と称して現職や退職した先生にいつも楽しいお話をして戴いています。2015年12月10日北海道新聞に『「北星余市高　閉校を検討」入学者減、2019年度末で』と報道された以後、臨時の会報の発行そして「存続を願う要請署名」を現役PTA、同窓会、生徒会、下宿会、余市教会、町民の会と共に、東日本や西日本のOB会とも連携して積極的に取り組みました。

2016年3月15日には、全国から集まった合計43,528筆の署名を携えて北星学園に赴き、大山綱夫理事長にみなさんの願いを届けました。当時の久米田PTA会長、同窓会代表で妹尾先生、50期の現役生徒の高木さん、「余市町民の会」菊池さん、その他6名の参加でした。提出後の懇談では参加者からは、北星余市高存続への強い想いが述べられました。

今後も引き続き、北星余市高が存続するために、種々の活動を引き続きみなさんと協力しながら進めて行きたいと思います。

流星寮の管理人をしています

斉藤悠汰　（49期）

この下宿は今年の五月に始まったばかりです。まだ自分も下宿の仕事に慣れていないのですが、下宿から学校に通っていた経験から、こういう方が生徒たちが使いやすいのではないかと試行錯誤している段階です。生徒側からも、使いにくい点や困っている点などがあれば相談しながら改善している状況です。

自分は比較的生徒たちと年齢が近いのでフレンドリーな感じで接しています。ただ、あくまで自分は管理人なので友達感覚にならないように気を付けています。

自分が学校で経験したことなどを生徒に話す機会も多くあります。それを通してなにか感じてもらえることがあればいいなと思っています。

管理人として、生徒と積極的にかかわることが大事だと考えています。

これからも地道に頑張っていきたいと思っています。

卒業アルバムより

馬場達先生の思い出

元校長　深谷哲也

故　馬場達元校長

馬場先生は 2017 年 1 月 23 日、満 82 歳で永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

先生は 1965 年、北星余市高校の設立初年度に北星男子高から新設の余市校に転勤しました。山崎金治郎初代校長とともに、北星余市設立の中心教師です。退職されるまで 22 年間の在職でした。

北星学園が余市高校を設立するとき、学園内から転勤希望をとりました。はじめは希望者が結構いたそうですが、いざ設立が近くなると馬場先生一人になっていたというエピソードを聞いたことがあります。

初代校長は山崎金治郎先生、馬場先生は教頭の役目、教務主任として学校運営の中心になって活躍しました。名実ともに教職員のリーダーでした。2 代目が吉川泰夫先生、そして 3 代目校長が馬場先生です。馬場校長から自校の教職員の選挙で選ぶ公選校長となりました。40 歳代で校長に選ばれました。したがって、担任を持ったのは 1 期と 9 期のみです。

教育に対しては非常に情熱的で、ロマンチストでした。クラスづくり、学園祭などの時の担任としての張り切りようは素晴らしいもので、多くの教師の見本となりました。担任としても中心的存在と言えるでしょう。

北星余市は 1980 年代の後期から、全国から中退者などを受け入れる転編入制度を取り入れましたが、馬場先生は北星余市教育の基盤を作った前半の中心的存在と言えるでしょう。現役時代の最後半は病気がちでしたが、それさえなければ転編入制度の北星余市を指導していたことでしょう。

別の側面として、馬場先生は、敬虔なキリスト教信仰者でした。人生の後半、私も余市教会で教会生活を共にしましたが、どんなに体調が悪くても教会に通い続け、子供たちを指導する教会学校の校長を最後まで勤めました。

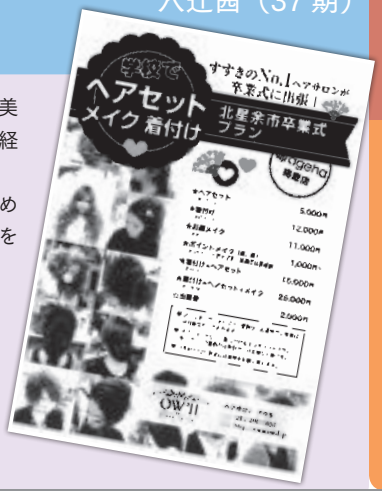
馬場先生はいつも北星余市の将来を心配しておりました。今もなお、天上にあって北星余市のことを見守り、祈り続けていることでしょう。

卒業式のお手伝いをしています

六辻茜（37 期）

六辻茜さんは札幌・ススキノの美容室「ヘアーサロン　アウル」を経営しています。

毎年、晴れて卒業する生徒のために、スタッフと共に「出張着付」を行なってくれています。



卒業アルバムより

新しく職員室の顔になりました

長い間職員室でみんなの成長を見守ってくれた『安藤さん』が、一昨年の 3 月末をもって退職されました。後任には、本校を卒業した國久さんが“職員室の顔”となるべく日々奮闘されています。

卒業してから 8 年が経ち、まさか母校で働くなんて私自身が一番想像していませんでした。毎日、生徒達に触れることが出来るこの貴重な時間を大切にし、母校の為にやれることを最大限やっていきたいと思います。
（國久麻美 40 期）

卒業アルバムより

訃報

平成 27 年	3 月	12 期 C	糠塚　誠	平成 28 年	10 月	31 期 E	香川陽子
平成 28 年	2 月	33 期 B	小熊正申	平成 29 年	11 月	15 期 A	山田盛彦
〃	2 月	41 期 D	弦巻　伸				

お悔み申し上げます。

「あいつ入院している。肺がんだ」と夫から聞き、すぐに会いに行ったのは昨年の年明けだった。顔を見た途端「何しに来たのよ」（つて、お見舞いに決まってるでしょ（怒））と、いつもどおりの憎まれ口にホッとした。闘病中は、会いに行ってもラインの返事も、いつも最後は「大丈夫！」だった。

でも一度だけポロッと弱音を吐いたことがある。病気のことを聞いて最初に会いに行った時「ヤバイ、悦ちゃんの顔見たら泣きそうになった…」と言ったのだ。自分の命の期限を知ることがどれほどのことなのか…胸が詰まった。「そうだよ！がんになんかなって…私も泣きそうだったよ。」と怒りながら、２人で笑ってちょっとだけ泣いた。

もっと年をとって、薄くなった頭やしわしわになった顔をけなし合うはずだった。まだまだ憎まれ口も言い合うはずだった。

盛彦、53 才はやっぱり若すぎだよ…。

（松村悦子 15 期）

Shiripaの星　Vol.16
2017年12月1日発行

［発行］北星学園余市高等学校同窓会「シリパの星」編集委員会
〒046-0003　余市郡余市町黒川町 19 丁目 2 番地 1
TEL(0135)23-2165　FAX(0135)22-6097
URL http://www.hokusei-y-h.ed.jp/

顧　　問　塚原　治
編 集 長　松村　悦子（15期）
副編集長　松浦　一法（12期）
編集委員　安藤　栄子（ 1 期）
本間美智子（ 5 期）
馬場　希　（12期）
平野満寿美（14期）
國久　麻美（40期）